

平成19年度第3回知床国立公園利用適正化検討会議議事概要
(中央部地区作業部会同時開催)

平成20年3月18日 13:30～15:30

釧路地方合同庁舎第1会議室

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

議案1. 平成20年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画について

◆資料説明

資料1-1 平成20年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画及び同整理票(案)

資料1-2 「平成20年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画(案)」に関する地元説明会の意見と対応

資料1-3 知床五湖の利用のあり方に関する検討状況について

資料1-4 羅臼岳徒然における携帯トイレ利用促進について

(座長) まず資料1-1の方で、ご質問等ないか。

1点確認だが、資料1-1の実施対策事項一覧表の(4)カムイワッカ②の備考欄で、「団体」が追加されているが、これは具体的な団体が決まっているのか。

(事務局) 現在様々な機関が協力してクマ対策に取り組んでいるが、例えば知床財団等は町や環境省の請負という形以外でも関わって頂いている。

(座長) 他に実施計画について、ご意見、ご質問を伺いたい。

(小林委員) もう少し早く気づくべきだったが、根本的な問題としてご意見したい。この知床五湖利用に関する資料1-3、また先端部地区の利用の心得もそうだが、リスクの軽減や安全ということが非常に大きな論議の柱になってきている。資料1-3でも自然の保護と利用と安全の3つを挙げている。ということは保全と保護と利用だけではあてはまらないカテゴリーになってきている。しかも先端部地区利用の心得の方もリスクの軽減ということが非常に多くの項目を占めて書かれているという現状がある。

それから営造物型公園になるが、国土交通省でも、ヒグマを含めた野生動植物のリスク管理ということを検討している。現在リスク管理について、いろいろな場面、分野で急速に議論が広まっており、そう考えるとやはり組み立ての中で、リスク管理、安全性の議論は3つめの軸として、やはり論議しておく必要があるのではないか。これまでは小さな項目となっているが、内容を見るとかなり重いものであるし、これから中央部を論議していくときに、きちんと論理立てしていく必要がある。

2つめとして、資料1-1から見えていくと、先端部と同様にゾーンしか見てこなかった。ところが中央部の利用を考えると、一番問題なのが自動車利用のコントロールである。これは自動車利用適正化協議会という会議があるが、そこでは専ら車両規制が中心であり、この中央部全体の交通システムについては議論されていない。実際に資料1-1左側の中央部基本計画に関わる事項を見ていくと、例えば五湖の歩道では⑤⑥番、それから羅臼湖地域では②番、知床横断道路の③④番、連山地域では町道岩尾別線道路の問題、カムイワッカ地区の⑤というように、車の利用のさせ方を総合的に検討する必要があると思う。

以上の2つの項目について別立てで議論する必要があるのではないか。

(座長) 非常に根本的な提案だが、今ここで議論を始めるのは時間も限られ無理である。これはこれで動かしておき、どこかの段階で具体的に書き込むなり、または今ここで書き込むならば、今後平行して検討すべきではないかという事をどこかに入れておくというのはどうか。もう少し早くご提案頂ければ検討可能だったが。書き込みをどこにするかという事だが、表に書き込むのは小さすぎるので、7ページ実施対策のところの利用のあり方の検討などに若干スペースを設けて記述するのはどうか。

(中川委員) 今の小林先生のご指摘は大変重要だと私も思う。元々この利用適正化の検討は利用と保護という視点で地区毎に整理されてきたように思うが、リスク管理ということや利用のコントロールという軸でも整理できるようなものであると思う。そういう性格のものである気がするので、重複してもいいので整理すれば、まだ見えてきていない問題も見えてくるのではないか。

(座長) 今の問題について何かご意見ないか。

(斜里山岳会) 登山道の部分と関連しているが、今羅臼岳、硫黄山は岩尾別の登山口に集中しているが、今の公共交通機関の問題を入れていくと分散化についてもっと具体的に羅臼側の利用等を検証できると思う。また今は使われていないがカムイワッカ、それから五湖等、その辺をうまく交通機関が廻るようなシステムを構築できればと思う。

(座長) 今の問題も含めてどこかに書き込めるようにしたい。

(知床財団) 資料1-1の3ページだが、対象地域の一番下のところに※「カムイワッカ～硫黄山エリアについては・・・」とあるが、現状と乖離している。マイカー規制協議会の席だったと思うが、湯の滝の入り口の所から知床大橋にかけての登山口を含む沿線は、安全対策のための工事の目処が立たないということで、登山者も含む歩行者は今後利用させることができないという報告を受けたと記憶している。そうなるこの地区はその方針が変わらない限り、元々登山地として利用できなくなるということである。その辺をきちんと整理しない限り、これは記述としても整合性が取れないし、また中央部地区の利用地域の中で、この硫黄山の登山口は大変重要な地域でありどうするのかこの場できちんと議論しなければならない。現実的には道路があって落石の恐れがあり、その安全対策の目処が立たないからということであるが、歩行者にとってはもっと危険なところを歩いてきて、道路に行ったら登山道より安全にも関わらず、しかも工事がやっていない時期でさえ入ってはいけないということで、登山口が機能しない。これは一般の市民には全く理解できないことであり見直すべきである。特に8ページ目に知床連山地域の利用の方針として、登山者自身の経験と技術・装備に基づいて自己判断と自己責任によることを原則とすると明記しており、工事を休んでいるような時期については、自己判断により通行できるようにしなければ、この地域の利用について検討することもできない。

(座長) 今の意見について、環境省、土現に伺いたい。

(網走土現) 登山道の利用ができないということは再三申し上げているが、その度におっしゃられる、もっと危険なところを通ってきているのでということだが、道路を管理する法律で道路法というのがある。同じ法律が、町中でも山の中でも同じ論理であり、自己責任というが、少なくとも道路法の及ぶ範囲では落石なり、何か有った場合は我々は管理者として責任を求められる。一般の人から見れば、道路管理者が危ないけ

れど自己責任で通りなさいという方が無責任と感ずるのではないか。従って申し訳ないが対策が終わるまでは通すことはできない。

(知床財団) 本当に今にも崩れそうな状況があれば、それは理解できると思う。全く静かで工事も行われていない状況で歩いてもいけないというのは理解されない。改めて強く申し上げたい。道路管理者の論理では当たり前かもしれないが、一般市民には全く理解できない。それは別として、3ページの記述は通行できる見込みが全くないので、検討もできない。登山口を廃止するのか、あるいはどうするのかきちんと明確な議論のもとに知床連山地域の利用のあり方を記述すべきであり、この記載についてはまず何らかの修正をお願いしたい。

(新庄委員) 今の道路のことだが、道路管理者がいるところといないところは区別しなければならない。登山者が登山をしてきて、今までは通行していたが、道路を使うことができず移動することができない、だからその道路を通らせてくれということではなく、何か他に方法がないのかということを検討する必要があるのではないか。

(座長) この問題をどうするのかということではなく、これは個別の問題ではないか。この問題はここだけでなく、いろいろなところで起こりうることである。どういう工事がこれからでてくるのかわからず、特に落石というような思ってもいないところで出てくるという可能性もあるので、道路管理者としては通らないでくれと言わざるを得ない。ここだけ取り上げて、「工事の終了を待って検討する」ということは書かないほうが良い。

(斜里山岳会) 1月の自動車利用適正化協議会の中で、斜里町の方で関係機関と扱いをどうするのかという具体的な検討を行いたいということなので、早急にその場を持って欲しいと思う。道路管理者のほうもその場で通れないんだということを理解して欲しいということだけであれば協議はやる必要はない。それから登山道の整備について二つ池の付け替えなどいろいろ出ているが、仮に将来的にもカムイワッカ線が使えないということであれば、この整備についても抜本的に再検討する必要がある。縦走ができず、引き返すルートという状況にしておいて、登山道の付け替えの必要があるのか、そういう検討も出てくるので、山岳会として早急に検討をお願いしたい。

(中川委員) 前回もお話したように思うが、五湖の高架木道の整備について、終点展望台の近くに外来種の睡蓮があり、誤った自然観を与えることになると思われるので、やはり除去するなどの検討が必要と思う。

(座長) そのほか五湖の利用について、ご意見ないか。

(小林委員) 山中さんから提案のあった件はまさに、先ほど申し上げた自動車の利用とリスクの問題がぶつかっている。従って、あそこを論議する場合、リスクをどうするのか自動車の全体の利用をどうするのかという大元を決めないと、あそこだけ議論しても決まらない。そういった議論をベースにこの問題を次に議論していきたい。知床五湖の件は前々から気になっていて、五湖の延長部分についてこれは当然対面交通となる。既存の部分は一方通行でラウンドである。そう考えると相当の幅が必要となり、無ければ渋滞が予想される。それから今でもそうだが、高架木道上で様々なガイドの方が自然観察をされている。その時渋滞が発生する。一方通行なら良いが、今度は対面通行で、そこでガイドが説明されると大渋滞が発生すると考えられるが、その辺はどう考えているのか。

(座長) まだ設計段階に行っていないのではないか。待避場のようなスペースやガイドが説

明するスペース等などは確定したことではないのではないかと。

(事務局) 設計自体は確定していないが、対面交通を想定しており、幅員等についてそれを考慮するということと、具体的に地元の方々と木道自体をいかに魅力ある物にするかという観点で、例えば途中でちょっとした小休止を行う場所だとか、もう少し広がりを持たせて、ガイドツアーの際に横によけて説明をするような場所が必要ではないかだとか、そういった具体的なイメージも出てきているので、今のご指摘の点も踏まえて具体的な検討をしていきたい。

(座長) これから検討との事なので、いろいろなご意見いただければと思う。例えば、全部で650m、往復で1300mあり、30分から1時間くらいかかると思われるが、最盛期には渋滞が起きる可能性はある。そういうことも含め、いろいろな要件を出しておいたほうがよい。

他にご意見ないか。

(斜里環) 資料1-3、2②のところで「認定を受けた者が引率する人のみが地上歩道を利用できるものとする」とあるが、これはかなり厳しい。そのようなことは想定していなかった。意図を説明して欲しい。

(座長) 確かに中々厳しい内容となっているが、これはどうなのか。

(事務局) 基本的には、背景・課題のところに「ヒグマとの遭遇・人によるヒグマへの刺激による危険性」と記述してあるが、そういう問題があるので、今は木道を閉めざるを得ない。今の状態ではヒグマが出れば、どんな人が入っていくのかもわからないという状態で解放するわけにはいかないの、現実的に閉めている状況である。この問題を解決して、きちんとヒグマに対する安全確保をできる技術、例えば、ガイドの方にトランシーバーを持ってもらって、ヒグマが確認されたら速やかに連絡をして、ヒグマのいない方向に回避してもらい、駐車場まで戻ってもらうということや、ガイドがお客様がヒグマを見て騒いだり走り出したりしないようにきちんとしたコントロールができるようにしないと、やはり木道を閉めざるを得ない。閉める方がよいのか、制限をしつつ、きちんとした形で利用させるというのがいいのか。制限をして利用させるというのは、場合によってはガイド等によって質の高いサービスを提供できることが可能になったり、ある程度コントロールされた密度で利用されることになるので、静寂な環境も楽しむことができるというようなことも考えられる。いい悪いというよりも、木道を開けるためにはそういうスタイルしか考えられないのではないかと地元の方々との議論の結果で出てきた話である。

(斜里環) 何故このようなことを聞くかということ、私もクマに関わり45年くらい経つが、いろいろ見させてもらったりしているが、資料1-1の7から8ページの知床連山地域の記述で自己判断と自己責任とあるがこれはあたりまえの話である。今のご説明を理解した上で、やはりここでいきなり利用できる人を切るのではなく、まだ検討する余地があるだろうと思う。クマの安全性はガイドがついたら確実かといえば、そんなことはない。そうお考えならちょっと違うと思う。ガイドがつかなくても1人で入れる人もいる。ガイドがついても自分の責任、自分の体は自分で守らなくてはならない。これは自然の中に入る時は当たり前の話である。私の考え的には、ある程度のグループを安全に守れるガイドもいれば、個人で守れる方もいる。あるいは、仮にそういうことを習得したとしても、自分の身さえ守れないこともある。ということは原則的には

自分の身は自分で守るということをレクチャーすることが私は大切だと思う。これについては随分論議されてきている。しかしまだ結論は出ていない。これは永遠の課題と思うが、これからも皆さんの知恵を出し合い、検討していくというニュアンスに変えられないかという提言をしたい。

(座長) おっしゃることは確かにその通りと思う。例えば1人でも入れるわけだから、それは別に講習を受ける訳でもなく、一般的な知識や注意を守って入ることになる。またガイド付きというのはどういうことか。今のように観光バスのガイドが連れて行くのはだめだということか。

(事務局) こちらの資料にも記載してある通り、クマの専門家である知床財団と地元の人、観光協会も含めて議論をしてきた内容である。ヒグマが頻繁に利用する時期があり、そういった時期についてはヒグマに遭遇した場合に対応が充分できるような引率者の方、引率者の方がどういった能力が必要かということや、どういった形で認定するのか、もしくは養成するのかということは今後知床財団と一緒に構成をしていくことになると思う。ヒグマが活動している時期については、現在ヒグマが出たら木道を閉め、開けたと思ったらまた閉めといったように、非常に不安定で閉まっている時期が多いので、そういった時期については、引率者についてグループのみ入るといったことを地元の方も含めて検討をしてきたところである。知床連山等々と違い、年間60万人もの大勢の一般観光客が訪れる知床五湖であり、そこに一概に自己責任という形で入れるというのは出来ないという認識で調整を進めてきた。

(新庄委員) 高架木道を作る目的が明快になっていないのではないかな。なんでそんなに高いお金をかけて作るのか、その目的を明らかにしなければならない。

(事務局) 誤解があると思うが、高架木道については、誰でもいつでもという意図がある。

(新庄委員) 記述のある3つ課題を解決させるために作るのだと思うが、今のガイド付きで地上歩道を使うというのは矛盾しないか。地上を使うということは、植生の踏みつけにもなり、危険性もある。

(事務局) おっしゃる通りだが、人数制限を設けながら、地上部を静寂に快適に利用させるということになると、今までの利用者を受け入れられなくなる。五湖地区は知床国立公園最大の利用拠点になっており、環境省としては優れた自然環境をできるだけ多くの方に楽しんで頂くことも非常に重視している。特に質の高い環境を時間をかけて、お金をかけてでも楽しみたいという方は、コントロールされた地上歩道を利用して頂き、時間が限られているが、知床五湖の魅力を楽しみたいという方には、高架木道であれば安全に簡単に利用して頂けるということになる。60万人という利用者数を前提として、知床を楽しんで頂く機会を提供していきたい。深い楽しみをしたい方には新たなサービスが提供できるようになる。今の地上歩道、高架木道の役割とは違う、新しい地上歩道、高架木道が出来ると考えて頂いたほうがよい。

(新庄委員) 確認だが、高架木道を使う人たちの楽しむエリアと、高いお金を払って静寂な環境を楽しむエリアと全く分けると理解してよいか。

(事務局) 基本的にヒグマの出る時期については分けるということになる。高いお金を払ってというのはこれからの検討するところである。高いお金が前提ではない。

(新庄委員) 今使っている地上歩道ではないということによいか。

(事務局) ある場所は同じだが、体験としては異質になる。

- (新庄委員) 今あるところを歩いたとしたら、向かい側で高架木道にわやわや人がいるという状況になる。それはよしとしてやるのか。それとも質によって、エリアを明確に棲みわけ、ヒグマの遭遇を回避するということなのか。
- (事務局) 説明不足で申し訳ない。ご指摘の通りである。
- (座長) この整理は文章だとわかりづらいところもある。表形式にしたらどうか。
- (斜里環) 利用者を限定することに固執されているように感じ、理解に苦しむ。私が自己責任と言ったことについて少し誤解があったように思うが、原則的にガイドがつかないと入れないということはよく、それを緩めるということではない。1人でも行ける人がいるわけであり、これではそういう人もガイド付きでないといけないと読み取れてしまう。ガイドがつけばどこでも入っていいのかということ助長する恐れもある。そういうことも含め検討する部分がある。
- (座長) この文章は確定している訳ではない。これについてご意見頂ければということである。
- (斜里町) この言葉で突っ走るとか決まっているという話ではなく、まだまだ議論の余地がある。ただ方向性として、ヒグマ対策だけでなくオーバーユース対策という2つの大きな要素があり、それに対し、高架木道でクリアできる部分、そうではない部分がある。あるいはシーズンをうまく使えば、ヒグマ対策はしなくては良いが、オーバーユース対策はどうか、そういったことを今議論している最中である。ご指摘のあった、1人でどうなのかといったようなことも含めこれから検討したいと考えている。
- (斜里山岳会) ガイドのシステムについて話が出ているのが、非常に地域に限定してしまうことで恣意的に利益を得ることが生まれてきているということがある。今の書き方ではまさに地域優先となってしまっている。
- (ウトロ協) おおよその方向性は確認してきているが、やはり資料には出てきていないことでまだ心配に感じられている方がいることを知って頂きたい。一つ目は高木さんのご指摘のことになるが、きちんとしないと地元の人が知床からどんどん足が遠のいている状況があり、親戚の子供が来たときに連れて行けない五湖というのはどうなのかということがある。2つ目は五湖の利用のあり方が大幅に変わるということもあり、時間をしっかりかけて、利用の仕方をスライドして欲しいということである。その年々によってヒグマの出没状況も違い、自然の状況も違う。また明らかに観光の集客に影響が出たという時には、臨機応変に見直しをしていく制度として頂きたい。3つ目はバリアフリー構造というのがあるが、今の木道もバリアフリーだが、実際使う方からすればやや傾斜がきつい、あるいはきつくはないが長いというようなこともあるので、是非障害者の方の意見等も取り入れられたらと思う。
- (座長) 3つ目の指摘は私もそう感じた。構造上どうするのか、ガイドの仕方はどうするのかということについてさらに様々な意見を出してもらえればと思う。今日はこの話題はここまでとしたい。
- 次にトイレについてご意見どうか。
- (小川委員) 毎回トイレの質問ばかりになってしまうが、トイレは利用者にとって一番重要なものである。2、3お話ししたいことがある。
- 1つ目として、どのように検討されて今に至るか知らないが、携帯トイレで全部済ませようというのは無理がある。バイオトイレのような固定式のトイレが一番望まし

い。それを補完するものとして、携帯トイレがあるとして位置づけないと、携帯トイレに過大な期待が掛かってしまう。すでに大雪や利尻など先行しているところがあるので、そういったところを十分に参考として進めて欲しい。

2つ目にバイオトイレだが、いろいろな方式があり、後発のものについては怪しげなものもある。それがバイオトイレ全体の評価をおとめている状況にある。国内だけでなく、中国で作られているものもあり、日本の技術をまねして作ったはいいが、うまくいかないということが起きている。いろいろなものがあるということを踏まえて検討する必要がある。

3つ目だが、羅臼町については有料ゴミ入れで回収するとあり、斜里町と方式が違っている。これは登山者、利用者に混乱を招くので何とかならないか。携帯トイレをお金を出して買い、キャンプ場か何かでまた有料のゴミ袋を買うというのは2重払いになり、何か工夫の余地があるのではないか。それから、回収の場所は書いてあるが、その体制をきちんと示さないと、ものがものだけに後々問題になる。

またしっかりした体制が出来たとしても、なかなか利用者に伝わらないことがある。もよおしたときに、あと10分すればあるということがわかれば、きちんと利用してもらえることにつながり、そのようなきめ細かな対応が必要である。

(座長) 時間もおしてきているが、他にいかがか？

(斜里山岳会) 要望だが、資料に利用状況の把握とあるが、是非現地の状況調査を含めた調査をお願いしたい。また啓発活動で、斜里町、羅臼町、環境省の担当の方はしょっちゅう山に行かれていることと思うが、パンフ、ポスター以外に、現地での指導普及を直接的にお願いしたい。地元以外のガイドの方もたくさんおり、そういった方への普及啓発も是非お願いしたい。

(斜里山岳会) 屎尿対策に限定しているが、山のトイレの問題は踏み跡対策でもある。その部分がすっぽり抜けていると思うので対策をお願いしたい。トイレは登山道の付帯施設であり、トイレと登山道は切り離せない関係になっている。

それから伝え方だが、ガイド組織が入っていないが、ガイドがこれは使えますよ、最後まできちんと処分しますよということを強く言うことができれば成功する。だからリーダーとかガイドとかがきちんと徹底すれば結構いいところまで行く。問題は無組織の登山者だが、それはまた別な対処をすればいい。組織されている登山者に対する立場がこの中に抜けているので加えて頂きたい。

(座長) 時間もおしてきているが、他にいかがか？

これも様々な問題が出てくると思われ、実際どういう状態であるのかというのをよく把握するということも含め、普及促進に向けてよりよいまとめにしていければと思う。

議案2. 知床半島中央部地区利用の心得の検討について

◆ 資料説明

資料 2 知床半島中央部地区利用の心得について

(座長) 今ご説明があったように、これで確定ということではなく、この場で文章を検討することは難しいので、別に起草委員会みたいなものを立ち上げブラッシュアップしていくということで考えたい。この場ではその会には出られないが、なにか組み立てを

こうしたほうがよいとか、あまり細々したことではなくご意見頂ければと思う。

- (小川委員) 前から気になっていることだが、心得、ルール、約束、原則といろいろな言葉が使われている。私たちはわかっているが、普通の人に見せるとごちゃごちゃしてよくわからないという反応が返ってくる。どうにか整理できないか。私が思うには、例えば3つの原則はむしろ3つの柱というようにやわらかくし、それから細則というのも法律の言葉で堅いと思う。10の約束というのがあるが、例えば1の「野生動物に餌を与えない」というキーワードがあるが、これは下の「自然の生態系を～生み出さないために」のあとにつなげてしまうなどし、「野生動物に餌を与えない」という部分を強調するなどし、細則の「ヒグマや～」という文章をその下につけ、一緒にしてしまうほうがわかりやすくなるのではないか。そういった工夫も起草委員会の中で是非検討して頂きたい。
- (中易委員) これは中央部地区の利用の心得ということだが、「中央部地区」という言葉が出てくるのが表題だけである。内容的には中央部地区がどういった場所なのか全く出てこない。先端部地区の心得には出てきたと思うが。利用者に配布する際はそのあたりも記載するという理解でよいか。
- (座長) 原案であり、そうとらえてよい。
- (中易委員) また小川委員の指摘のとおり、約束と細則は一体化したほうがわかりやすい。それから約束の9番目に「漁業施設や遺跡に～」とあるが、遺跡の記述が細則にも無いので、これは少し整理したほうがよい。
- (中川委員) 今の点でお話ししたいが、遺跡はわかるひとはわかるという状態である。斜里の方には特に表示はないが、羅臼に表示があるのであれば、検討する必要がある。
- (羅臼山岳会) 確かにそうだが、中央部地区の範囲を見る限り、漁業施設、遺跡はほとんどないように思えるが。
- (事務局) ルサー相泊間が範囲になり、少なくとも漁業施設はある。
- (羅臼山岳会) それならばわかるが、遺跡の表示はしていない。
- (中川委員) 斜里側も羅臼側も遺跡はあるが、わかる形ではない。
- (座長) わかるような場所がないのならば、書かなくてもよいのではないか。これもこれからの問題であり、検討してまた皆さんにご意見を伺いたいと思う。

議案 3 報告事項

◆ 資料説明

資料 3-1 第3回『知床永久の森づくり協議会』の開催について

資料 3-2 知床ボランティア等活動拠点施設の整備について

資料 3-3 平成 19 年度知床五湖冬季利用状況(中間報告)

資料 3-4 知床国立公園ガイドブックの作成

- (座長) 何かご質問ないか。
- (小川委員) 中央部の心得のできあがる目処はいつ頃か。
- (事務局) 次回の検討委員会で確定させて、速やかに行いたい。今回は1月の確定から3月と時間が掛かってしまった。
- (小川委員) タイトルに世界自然遺産ということを出した方が、一般の方にわかりやすいのではないか。

- (事務局) 先端部の際は検討しなかった。中央部については世界遺産と思われて来る方も多いと思うので、起草委員会で検討したい。先端部と中央部では心得の使われ方が異なると思われ、利用者数も1000倍以上違うところであるので、打ち出し方は変えていかないと考えている。そのあたりもご相談させていただければと思う。
- (小林委員) 利用のインパクトだけでなく、工事のインパクトも考えて欲しい。基礎部分について木造が本当によいのか、スチールの方が良いのか、耐久度、補修の問題など検討する必要がある。木道はかなり指摘がされてきている。木の良さもあるが、デメリットもある。木にこだわらない方がよい。
- (座長) 私もそう思う。他にいかがか？
- (中川委員) これだけのメンバーの議論であり、もう少し会議の時間を確保して欲しい。

閉会